

松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉
 E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>
 松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」
 〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

12月になり、子ども支援研究センターの窓から見える道路沿いの木々もすっかり落葉し、寒さもひとしお身にしみる季節となりました。各学校、園におかれましては、様々な行事等でお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。松阪市においても、インフルエンザが流行し始めています。先生方も体調をくずされませんよう、十分お気を付けてください。また、交通事故が一番多い月が12月だそうです。このごろ、日没時刻が日に日に早くなるのを感じます、仕事などが忙しくなり心の余裕もなくなることで、事故が起こりやすくなります。心に余裕をもって行動し、交通事故防止に努めましょう。

研修講座報告その3 ～研修講座の様子をご紹介します！～

B-6 健康教育 今、学校ではじまる「がん教育」

講師 林 和彦 先生

医師として、がん医療の現状、がん医療に対する様々な国の国民の意識の違いなど、具体的に分かりやすく教えていただきました。また、メディアを使っての様々ながん啓発活動、教育現場でのがん教育の進め方についても先生自身の体験をもとに分かりやすく教えていただき、学びを深めることができました。



B-7 外国人児童生徒教育 多様な言語文化背景をもつ子どもたちのことばの学習を支援する —コミュニケーション・教科学習・社会参加のために—

講師 齋藤 ひろみ 先生

生活言語・学習言語能力を高めるための国際教室、在籍学級での実践例をもとに、発問・支援のポイント、教材・課題提示、板書の工夫などたくさんのお話を教えていただきました。学習言語に触れる場を様々な場面で作っていくこと、知識の詰め込みではなく、主体的に日本語を学ぼうとする意欲を高める学習活動を工夫していくことが大切であることがわかりました。



B - 8 人権教育Ⅰ 部落差別の解消に向けて

講師 垣内 秀文 先生

部落差別を自分事として考え、とらえる必要性について、様々な観点から人権教育を幅広くご指導くださいました。教職員自身が部落問題を自分事にするために必要なことについて、意見交流を行う活動を通すことで、学びが深まり多様な考えを得ることができました。



B - 9 人権教育Ⅱ ともに学ぶために ～障がいのある子どもを中心に据えて～

講師 御堂 栄治 先生

「障がいの有無にかかわらず誰もが共に暮らしやすい三重県づくり条例」の学習では「障がいの『社会モデル』とは?」「社会的障壁とは?」等、知っているつもりになりがちな用語について、意味を確認するだけでなく、グループワークを通して、具体的にどのような場面を指すのか、普段の生活に結び付けて考える機会をいただき、理解を深めることができました。



B - 10 人権教育Ⅲ 人権学習指導資料を活用して

講師 鈴木 良英 先生

資料を活用した学習展開例を通して、ねらいの大切さや題材研究の仕方など、様々な観点から幅広くご指導くださいました。教職員自身が体験活動を通して、差別の問題を当事者のみの問題として考えることなく、協力して行わなければいけないことを、改めて学ばせていただくことができました。



B - 11 生徒指導Ⅰ Q-Uを活用した学級づくり ～分析と対策～

講師 青木 俊幸 先生

分析と考察の仕方、それに基づく対策の立て方についてご指導いただき、受講者自身が気になる学級を分析し周囲と意見交換を行うことで、客観的に学級の様子を把握することができました。「学級や個々を見ていきながら、進めていく大切さを知ることができました。」という、感想がありました。

